Vol.22
2025.3

ND
キャンパス通信

わたしらしく、誇らしく
Be Notre Dame, Be Myself

京都ノートルダム女子大学
KYOTO NOTRE DAME UNIVERSITY

巻頭特集

ND VOICE

自然の中の「遊び」を通して 子どもと学生の両方が「学び」を得られる一日に

生活環境学科 M.E.さん・心理学科 K.S.さん・こども教育学科 H.T.さん

ND VOICEでは毎号注目のND生をご紹介。今回は、宝が池公園いこいの森で行われたイベント「自然と遊ぼう！」にボランティアとして参加したみなさんにお話を伺いました。

工夫を凝らした遊びを通して 子どもたちとの関わり方を模索する

これまでもボランティアをやってみたい、子どもと関わってみたいという思いはあったものの、そのような機会がなかなかありませんでした。そんなとき「自然と遊ぼう！」のボランティア活動があると知り、参加を決めました。

イベント当日の朝、先生方と学生ボランティアで一足先に公園に集合し、子どもたちと遊ぶための準備を進めました。子どもたちの気持ちに寄り添うため、事前に遊びを体験することに。普段は気にすることのない落ち葉ですが、工夫すればさまざまな楽しい遊びができることに驚きました。また、先生の「実際には黄色い葉っぱじゃなくても、子どもたちが黄色の葉っぱだと言ったらそれが正解」という言葉が印象に残っています。子どもたちの自由な発想や考えのためには、先入観で決めつけないことが大切なのかもしれないと感じました。

イベント開始時刻に合わせて、集合場所で待つ親子と合流。公園をのんびりと散策しました。道中で子どもたちが拾った葉っぱを袋に詰めて遊びの準備を進めます。

最初に行ったのはビンゴゲーム。集めた葉っぱを9つに区切られた台紙の上に並べたあと、「匂いのする葉っぱ」など先生が発表する特徴に当てはまる葉っぱがあれば、シールを貼ります。先生が葉っぱの特徴を発表するたび「ビンゴ！」と元気な声が飛び交いました。

葉っぱやモールで力士を作るとんとん相撲では、「絶対に勝てるお相撲さんを作る！」と意気込む子や、一生懸命お母さんの分の力士を作ろうとしている子など、子どもたちの個性が見えてきました。

他にも「森の水族館」と題して、目玉のシールをつけた葉っぱを魚に見立て、青いボードに貼る遊びも用意。葉っぱに両面テープを貼るのは難しいので、子どもの代わりに貼ってあげようとしましたが、自分で貼りたがっていることにハッと気づき、「こうするんだよ」とやり方を教えました。その子が1人で葉っぱを貼りつけることができたのを見て嬉しく思うのと同時に、子どもの気持ちを尊重することの大切さを学びました。

子どもたちの笑顔が忘れられない思い出に 一歩踏み出してボランティア活動を

これまで小さい子と遊んだ経験がなかったため、どう話しかければ良いのか、もし子どもたちが楽しめなかったらどうしよう、と前日から不安に思っていました。しかし、当日は思っていた以上に子どもたちの方から話して距離を縮めてくれたので、緊張がほぐれました。時には「葉っぱを拾いたくない」と予想外の発言も飛び出しましたが、子どもたちに寄り添い共に楽しむことを意識した結果、イベント後には「ありがとうございました」と笑顔で手を振ってもらいました。学生の中には、参加するか悩む方もいるかと思いますが、子どもたちとの関わり方について実際に接しながら考えることができ、楽しい思い出も残ります。少しでも気になる方は、ぜひこのボランティアに参加してみてください。

Interview

「自然と遊ぼう！」ってどんなイベント？

本イベントが始まったのは2006年の秋。大学院の臨床発達心理学実習で行っていた子育て支援教室の活動を母体として、地域の子どもたちが学生たちと自然の中で遊ぶイベントの開催を提案したのがきっかけでした。そして理科教育、図工科教育、発達心理学の3つの専門性が合体したことで、参加親子・学生ともに満足度の高いイベントとなり、18年も継続することになりました。

今回は現代人間学部と心理臨床センター共同で開催。教員とボランティアの学生、参加された親子で公園を散策し、集めた葉っぱを用いてゲームや楽しい遊びを行いました。人工物に囲まれて育つ現代の子どもたちにとって、自然の中での遊びは新鮮で好奇心を刺激される活動です。また学生たちにとっては、子どもの発想の自由さを知り、子どもの目線に立って接することの大切さを学ぶ良い機会になったのではないかと思います。子どもたちと学生たちの双方に新しい発見や楽しい出会いがあるこのイベントが、今後も続いていくことを願っています。

心理学科
高井 直美 特任教授

専門は発達心理学。特に乳幼児期の言葉・対人関係の発達について基礎的な研究を行っている。保育や子育てにおける子どもの臨床発達支援にも携わる。

ND
キャンパス通信

Vol.22

01 巻頭特集
ND VOICE
「自然と遊ぼう！」ボランティア

03 TOPIC
2026年4月開設
人文学部 言語文化学科
国際言語文化学部長 国際日本文化学科
河野 有時 教授

05 学生INTERVIEW
・国際日本文化学科 フィールド実践演習
・ライフキャリア形成科目 キャリア形成ゼミ
人が食で幸せになるエビデンス探求ゼミ
・ND地域ツーリズム研究会
「フリーペーパーで改善する観光課題」
・こども教育学科 佐藤ゼミ

07 英語スピーチコンテスト 特集

09 研究者インタビュー
心理学科　松島 るみ 教授
こども教育学科　佐藤 真太郎 講師

10 NDと社会

11 先生たちに聞いてみた

12 NDの本

13 Events Diary

15 NEWS

17 INFORMATION

18 SCHEDULE

「人文学部 言語文化学科」開設
好きなことにとことん熱中できる

2026年度に学部改組によって開設される
人文学部 言語文化学科について、
河野有時教授にお話を伺いました。

（2026年4月開設予定）

PROFILE

国際言語文化学部長
国際日本文化学科
河野 有時 教授

専門分野は日本近代文学。「国際日本文化論」等を担当。
国際啄木学会副会長。
主著：『コレクション日本歌人選035 石川啄木』（2012年1月 笠間書院）、『啄木短歌論』（2018年3月 笠間書院）

“好き”が見つかる、“好き”を究める

新しい人文学部言語文化学科には、英語英文学コース・多文化共生コース・日本語日本文化コースという3つのコースがあります。言語文化学科に入学すると1年生で基礎的な内容を学び、2年生からいずれかのコースに所属することになりますが、必ず希望したコースに進むことができます。
そのために第1学年には、大学での学びの基礎となる力をつける「基礎演習」や、この学部で学ぶ内容を概観する「言語文化概論」、さらに「英語英文学入門」「多文化共生入門」「日本語日本文化入門」などの入門科目が配されています。これらの授業を通して自分の好きなことを見つけ、コースを選択していくのです。
やりたいことや自分の興味や関心がまだ漠然としていても、入学後には夢中になれるものを見つけ、究めていくことができるでしょう。

「なりたい自分」にとらわれず、自分がしたいことをさがしてほしい

若い人が将来なりたい自分の姿を思い描くことはとても良いことだと思います。ただ、それに向かって努力してもらうためには、思い描いた自分と現在の自分とのギャップを痛感してもらわなければなりません。「いまのままではダメだ」というわけですね。この「夢や希望,憧れる自己イメージの獲得」というのは、小学校におけるキャリア教育の目標例の一つにも入っています。もちろん「憧れる自己イメージ」は小中高と変わっていくでしょう。大学生ともなれば「憧れる自己」とも相応に折り合いがつけられるようになっているかもしれません。
でも、この新しい学部では「なにかになる」のではなく「なにをする」か、あるいは「なにをしたいか」を考えてもらい、いまの自分も、憧れの自己も忘れてしまうほど好きなことに夢中になってほしいと私たちは願っています。
どのような人材になるかということより、社会の一員として何を「する」のか、そして何を「していくのか」ということが大切なのだと考えているのです。

学生の人生に寄り添い、学生とともに成長し続ける学部へ

人文学部は、学生を成長させるための学部であるよりも、学生とともに成長する学部でありたいと思っています。ここでの「学生」は、いま在籍している学生だけでなく、卒業生も含みます。卒業してからも、図書館を利用するためにキャンパスに来たり、リカレント講座に参加したり、生涯にわたって学び続けることで、在学生・卒業生・教職員がずっとともにあるような学部になるでしょう。
人生100年時代とも言われますが、100歳まで生きるとなると、大学を卒業してからまだ70年以上の時間があることになります。定年がさらに70歳に延びたとしても、そこからまだ30年もの時間があります。すぐに役立つことや効率性、能率化を重視するのではなく、学生時代に見つけ出した好きなこと、その探究から得られた学びが、年齢を重ねてもみなさんの人生を支え、道を照らし続ける力となるはずです。
新学部・学科は、現在設置されている国際言語文化学部の英語英文学科と国際日本文化学科を継承していく形となりますので、これまでと同様に応援いただければ嬉しいです。

ノートルダムの伝統を受け継ぎ、人文学の新たなステージへ

（計画は予定であり、内容は変更となることがあります）

2025年度		2026年度	
学部・学環	学科	学部・学環	学科
国際言語文化学部*1	英語英文学科	人文学部	言語文化学科 ・英語英文学コース ・多文化共生コース ・日本語日本文化コース
	国際日本文化学科		
現代人間学部	生活環境学科	現代人間学部	環境デザイン学科 （2026年4月名称変更予定）*3
	心理学科		心理学科
	こども教育学科		こども教育学科
社会情報学環（2025年4月名称変更）*2		社会情報学環	
女性キャリアデザイン学環（2025年4月開設）		女性キャリアデザイン学環	

人文学部特設ページで最新情報を公開中！
くわしくはこちら

＊1　在学生および2025年度入学者対象のカリキュラムは2026年度以降も継続し、現行の国際言語文化学部2学科は、在学生および2025年度入学者が卒業するまで維持されます。
＊2　名称変更は2025年度在学生全てを対象とします。
＊3　名称変更は2026年度入学者から適用されます。現行の生活環境学科は、在学生および2025年度入学者が卒業するまで維持されます。

学生 INTERVIEW

本学では、さまざまな場で学生が活躍しています。
今号では、授業やグループでの学生の取り組みをピックアップ！

企業とのコラボで実践的に学ぶ 京都の食文化の継承

国際日本文化学科　フィールド実践演習

本学で開講されている「フィールド実践演習」という授業では、京麩や湯葉の専門店である株式会社半兵衛麩さんとともに、京都の伝統食材や「お辨當箱博物館」を知ってもらうための取り組みを行いました。その一環としてND祭でコラボブースを出店することに。学生が主体となって商品名の考案やパネルの制作等をしました。企業とコラボしていることもあり妥協は許されず、何度もやり直しを行いました。その分、完成した時には達成感があり、当日も自信をもって商品を宣伝できました。一人ひとりに丁寧に説明した甲斐あって「購入しました、おいしかったです」とお声がけいただいたのが印象に残っています。自分たちのアイデアが京都の食文化の継承に貢献できるかもしれないと思える貴重な経験でした。

国際日本文化学科 3年次生
K.C. さん

Q 「フィールド実践演習」を受講しようと思ったきっかけは？
A 京都の食文化やその保存・継承について学べることに興味を惹かれたからです。座学だけでなく実際に店舗や博物館に行き、自分ならどのように宣伝するか考えるのが楽しかったです。

Q 今回の取り組みで面白かったことは？
A 半兵衛麩さんと一緒になって課題解決を考えたことです。企業の方と話し合いを重ね、私たちが考えたアイデアを実際に取り入れていただけたことが嬉しかったです。

大好きな食堂に貢献したい 故郷の料理をメニューとして提案

ライフキャリア形成科目　キャリア形成ゼミ
人が食で幸せになるエビデンス探求ゼミ

「キャリア形成ゼミ」のプロジェクトで、学生食堂を運営する株式会社笑顔会の方と協力し、学食を通じて人が幸せになる方法について探求しています。学食に訪れてもらうきっかけ作りと顧客満足度の向上を目的として、ゼミ生3人の故郷の料理を期間・数量限定で販売しました。北海道出身の私は、安価で美味しいご当地グルメとして味噌バターコーンラーメンを提案。販売期間中に食堂に立ち寄ると、そのメニューを注文している人を多く見かけ、さらにすぐに完売したと聞いて、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。企業の方と連携して実践的に学んだことで、大好きな食堂を盛り上げ応援したいという思いが一層強まりました。

生活環境学科 3年次生
A.K. さん

Q この活動の魅力的なポイントは？
A 食を通じて顧客満足度を高める方法を考え、計画した結果が実際の学食の売り上げや食べている人の表情、意見から目に見える形で実感できる点です。

Q この経験を今後どのように活かしていきたいですか？
A お客様に喜んでもらうためには、メニューの美味しさだけでなく、販売方法の工夫等も大切だと学びました。相手の視点に立って、より魅力的な商品や企画を提案していきたいです。

観光課題の解決をめざして 左京区の新しい魅力を発見＆発信！

ND地域ツーリズム研究会
「フリーペーパーで改善する観光課題」

ND地域ツーリズム研究会は、左京区役所が募集した「左京区まちづくり活動支援交付金」に応募し、採択されました。事業名は「フリーペーパーで改善する観光課題」。自然豊かな左京区エリアに多くの観光客を呼び込むことで、市内中心部のオーバーツーリズムを解決することをめざしています。交付金を活用して、私たちが実際に足を運んで取材した左京区の寺院や飲食店の魅力を発信するフリーペーパーを作成し、叡山電鉄の主要駅などに設置しました。学外の方とのやりとりも多く、初めて経験することばかりで苦労しましたが、良いものを作るためにメンバーや先生方と何度も話し合いを重ね、事業を実現させることができました。観光客の方に左京区の新たな魅力を発見してもらえたら嬉しいです！

国際日本文化学科 4年次生
S.S.さん

Q どんなところにやりがいを感じましたか？
A 観光客の方の思い出作りを手伝うことができる点です。また、手に取ったすべての人に喜んでもらえるように工夫して作成することにもやりがいを感じました。

Q この経験を通して得たものは？
A 考えを形にし、目標を達成する力が身につきました。卒業後は京都の観光会社に就職するので、この経験を活かしてみなさんが観光を楽しめるように頑張りたいです。

小学校の理科教育をよりよいものに 学会参加で広がる視野

こども教育学科　佐藤ゼミ

私の所属する佐藤ゼミでは、小学校の理科教育を専門とし、SDGsの観点も取り入れながら、子どもたちが楽しく学べる授業や実験を考案・実践しています。今回先生のご提案で、日本理科教育学会の全国大会でゼミ活動を発表することになりました。初めての学会参加で不安もありましたが、理科教育に関する最新の知見を得て学校現場での実践に活かしたいと考え、参加を決意。学会では、ゼミで実施した児童館の子どもたち対象のサイエンスショーの意義や成果を発表しました。発表内容に対して質問や感想をいただいたり、他の発表を通して専門外のトピックや課題も学んだりしてたくさんの刺激を受けました。今回の経験を糧に、ゼミの活動をより実りあるものにしていきたいです。

こども教育学科 3年次生
M.O. さん

Q 学会発表の準備はどのように進めましたか？
A サイエンスショーの活動をもっと広めたいという思いがあったため、活動内容をどうすれば分かりやすく伝えられるか試行錯誤しながら、スライドや原稿の準備を行いました。

Q 読者へのメッセージをどうぞ！
A 未経験のことに挑戦するのは、不安や失敗が伴うこともありますが、大学生という時期に多くの経験を積むことは将来に繋がると思います。時間を有効活用して有意義な大学生活を過ごしてほしいです。

英語スピーチコンテストって？

英語スピーチコンテストとは、高校生を対象としたコンテストです。本学の「ことば」の教育と研究を担ってきた英語英文学科主催のプログラムで、創立50周年の節目である2011年度より開催しています。一次選考を通過した入賞者は本大会に進み、NDホールにてスピーチを行います。

英語スピーチコンテスト入賞者
Before &After

2023年度第13回英語スピーチコンテスト
京都ノートルダム女子大学に入学した学生
に参加した全国の高校生のうち、
さんの高校時代・大学生活に迫ります。

奨学金制度について

英語スピーチコンテストにおいて優秀な成績を収めた方が本学へ進学された場合、入学金と学費が免除される奨学金制度を設けています。
一次選考合格以上の成績を残した方は入学金免除、加えて本大会の入賞者は入学後1年間の学費、上位3名は入学後2年間の学費が免除となります（過去3年間のコンテスト審査結果が有効）。また、本制度の利用によって全学環・学科への入学が可能です。※入学試験出願時もしくは入学前まで申し込みが可能です。

海外への想いを胸に 積極的な自分へと成長中

英語英文学科 1年次生
M.K. さん
#海外ドラマ #K-POP #メイク

高校生

不安の中でも、堂々としたスピーチを意識

私は母と2人で参加しましたが、周りは先生や家族を連れた他校の高校生ばかりで、少し不安に……。人前で話す機会が少なかったので心配でしたが、自信を持ってスピーチをすることを意識しました。

大学1年 春

入学！

海外志向の友人と過ごす日々

私には、空きコマやお昼によく一緒にいる友人が4人います。その中の1人は、私が英語スピーチコンテストに参加した際の優勝者。当時は友達になるとは思いもしませんでした。留学や海外生活を経験した人もいるので、知らないことをたくさん教えてもらい刺激を受けています。

大学1年 夏

Q. 英語スピーチコンテストに出たきっかけは？

私はコンテストの時点で本学に合格しており、進学は決まっていました。しかし、留学することを考えると授業料が安くなるのは非常にありがたいと思い、参加を決意しました。英語は得意ではありませんでしたが、一次選考はスピーチを考えて録音するだけだったので、挑戦してみることにしました。

Q. 大学に入って成長したと思うところは？

高校生の時は話す相手が限られており、自分から積極的に人に話しかけることも得意ではありませんでした。
しかし、海外ボランティア等を通して、英語を話せるようになるには恥ずかしがらずにさまざまな人に話しかけることが大切だと考えるように。常にフレンドリーでいること、自分から積極的に話しかけることを心がけるようになり、他学科の人や先輩とも気軽に話せるようになりました。

Q. 今後挑戦したいことは？

もっと英語を話せるように、来年からは1年間の留学に行こうと考えています。また海外インターンシップや、夏休みにも参加した海外ボランティアにも再度チャレンジしてみたいです。さらに、将来は海外に住むことも視野に入れています。具体的にどのような仕事をしたいかはまだ決まっていませんが、英語力の向上を目標に京都ノートルダム女子大学で学んでいきたいです。

スピーチコンテストへの応募を考えている高校生に一言！

英語でスピーチをするのはとてもハードルが高いと感じるかもしれません。私自身もそう思っていましたが、一次選考は書類と録音を送るだけなので、試しに応募するのでも良いと思います。もしうまくいかなくても、とても貴重な経験になるはずなので、スピーチコンテストに応募しようか迷っている高校生のみなさん、ぜひ挑戦してみてください。

学内から海外まで 多様なフィールドで精力的に活動中

英語英文学科 1年次生
A.F. さん
#インド映画 #ボランティア #旅

高校生

スピーチをやりきった爽快感！

開放感のある会場で思い切りスピーチをして、すっきりとした気持ちになったことが印象に残っています。お世話になっていた高校の先生に応援していただき、元気をもらえました。

大学1年 春

入学！

学内外で広がる交友関係

この1年で多様な友人がたくさんできました。同学年の友人以外にも、フィリピンでのボランティアや釜山の学生国際会議にともに参加した先輩方や、イベントで出会った友人とも親交を深めています。

大学1年 夏

Q. 英語スピーチコンテストに出たきっかけは？

今まで中学・高校で英語を学んできましたが、英語を活かせる機会があまりなく、「なにか物足りない」「もっと挑戦できる気がする」と感じていました。何か英語に関するコンテストに出てみようと探していると、京都ノートルダム女子大学の卒業生である先生がこの英語スピーチコンテストを紹介してくださったため、参加を決めました。

Q. 大学に入って成長したと思うところは？

批判的思考ができるようになったことです。大学で行われる授業や国際的なイベントでは社会問題を取り扱うことが多く、問題に対する意識が向上しました。そして、課題をどう解決するかを考えるようになり、思考力や判断力も高まりました。大学での授業やイベントは、日本語や英語で意見交換を活発に行う環境なので、視野が広くなったと感じています。

Q. 今後挑戦したいことは？

これからは、国内外のインターンシップに参加したいと考えています。また、これまで友人や先輩方と嵐山や沖縄へ旅行しましたが、一人旅にも挑戦し、慣れていきたいです。
そして、最終的な目標はイベントの企画・開催。海外ボランティア活動をはじめとした国際的な活動を続けていきたいと考えています。

スピーチコンテストへの応募を考えている高校生に一言！

スピーチコンテストに参加するにあたって何度も繰り返し練習した結果、人前で話すことに対する抵抗が徐々に無くなりました。また、英語でスピーチをする経験を通して、英語や日本語といった言語以外の部分のコミュニケーションスキルを身につけるきっかけとなったため、スピーチコンテストに応募するか迷っている高校生のみなさんにもぜひ挑戦していただきたいです。

研究者インタビュー

多彩な研究分野を持つ本学の教員たち。
今回は2024年度の科学研究費助成事業に採択された2名の先生方の研究をご紹介します。

「社会的エンゲージメント」が創造する大学生の学習環境

「アフターコロナ」時代の学び方 他者に働きかけ、ともに学ぶことの効果を明らかに

教育における「エンゲージメント」とは、学生がどのように学びに関与するかを表すもので、学習活動や成果、意欲に関連する重要な変数です。これまでも、学習者の学業・授業に対する態度、大学生活の過ごし方等の観点から、縦断的・横断的な方法で研究を行ってきました。

コロナ禍以降、改めて他者と協働して学ぶことの重要性が強調されている今、本課題では大学生が社会的文脈で教員や学習仲間等の他者とどのように関わりながら学習しているのか、またその効果について明らかにしたいと考えています。

昨今はオンラインを通した学習方法も増えており、一人で学ぶ機会も多くなっています。個人での学習も大切ですが、自分の心理的成長や心理的な充足感のためには、他者に働きかけたり、他者とともに学んだりすることも大切です。みなさんも、授業中、授業外を問わず、受講生や教員等、さまざまな他者との交流を通じて、学びをより豊かで楽しいものにしてください！

科研費概要

研究課題　「社会的エンゲージメント」はいかに大学生の望ましい学習環境を創造するか?
研究種目　基盤研究(C)
研究期間　4年
研究分担者　心理学科　尾崎 仁美 教授

松島 るみ 教授 MATSUSHIMA Rumi
心理学科

兵庫教育大学大学院院連合学校教育学研究科修了。博士(学校教育学)。専門は教育心理学。学習者の自律的学習態度を規定する要因を研究。近著は「新・教育心理学」(共著・教育情報出版)。

火山防災教育プログラム・教材開発 ――STEAM教育※及びESD、SDGsの視点からの再検討

子どもたちの災害対応力を育む 教材や授業内容を精査し、新たな防災教育へ

近年、頻発している自然災害に対処するため、災害時の行動選択や意思決定に活かせるような防災教育が求められています。

そこで、STEAM教育※及びESD、SDGsの視点から火山に関わる教育内容を再構築し、伊豆大島で小中学生を対象とした火山防災教育プログラムや教材を開発しました。これらの実践を通して、教育的効果を検証することが研究の目的です。もちろん研究は1人ではできません。子どもたちのより良い学びのため、学校の先生方や気象庁の職員、火山博物館やジオパークの方々と連携し、議論を重ねました。協力して考案した教材やプログラムで授業を行い、その結果、子どもたちの理解が深まったと感じたときが最もうれしく、やりがいを感じる瞬間です。

子どもたちの自然災害に対応する力を養うには、学習指導要領の内容に沿った画一的な学習だけでなく、その地域に応じた教育を行う必要があります。今後はこのような課題を一つひとつ解決しながら、学校教育における防災教育を体系化していきます。

科研費概要

研究課題　ESD,STEAM教育の視点を取り入れた小・中一貫の火山防災教育プログラムの開発と実践
研究種目　若手研究
研究期間　5年　研究分担者　なし

佐藤 真太郎 講師 SATO Shintaro
こども教育学科

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科(博士課程)修了。博士(学校教育学)。埼玉県公立小学校教諭を経て現職。専門は理科教育学及び防災教育。2009年「科学の鉄人」コンテスト優勝者。

※STEAM教育とは、科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、芸術・リベラルアーツ(Arts)、数学(Mathematics)の5つの分野を統合的に学ぶ教育。教科横断的な学びを通して、課題を発見・解決する力を育むことを目的としている。

NDと社会

本学は地域連携・産学連携をはじめとした社会貢献活動を行っています。
今号は2024年度に行われた取り組みや継続的な取り組みについてご紹介します。

コミュニティ活動実践2024　ハロウィンパーティーに葵児童館の子どもたちを招待　2024年11月2日

生活環境学科で実施している「コミュニティ活動実践」の一環として、学生が中心になりハロウィンパーティーを企画・開催しました。本学のマリア館ガイスラーホールに葵児童館の子どもたち15名を招待し、ハロウィンクイズやハロウィングッズ、折り紙の制作、写真撮影等を行い、充実した時間を過ごしました。

イベントを準備するにあたり、はじめに受講生一人ひとりに地域にどのような課題があるのかを考えてもらいました。その中で「地域交流の希薄さ」という課題を解決するための企画案を出しあい、意見交換を重ねた末、実施企画を決定。今年度は、子どもたちと地域との交流をテーマに、児童館の子どもたちを招待してハロウィンパーティを企画・立案・実践しました。

この活動を通して、学生たちが自分の考えを整理し、意見交換し、一つの活動をチームで取り組むということにチャレンジしています。学生たちにとって、相互の報告・連絡・相談の大切さや、助け合うことの必要性等を学ぶ貴重な機会になっています。

ND育友会のご支援でナプキンの無料設置が実現しました 心理学科×株式会社G-Place「誰もが快適な生理を」プロジェクト　2024年4月～

2023年度、心理学科の3つのゼミとFemtech Japanを運営する株式会社G-Placeが連携して実施した「誰もが快適な生理を」プロジェクトをきっかけに、大学構内でのナプキンの無料設置の実現をめざし、ND育友会のご支援でナプキンの無料設置が実現しました。現在はユージニア館3・4F、ソフィア館3・4Fの女子トイレに設置されています。学生からは「自分たちのゼミでの取り組みが、このように実現化され大変うれしく思います」と喜びの声が届いています。また「ナプキンが無料設置されていることで、安心して大学生活を送れる」との意見もいただきました。2024年度以降も本プロジェクトは、心理学科松島ゼミ・尾崎ゼミで取り組んでいきます。

次世代教育の未来を探る第2回「高大連携NDフォーラム」開催　2024年12月10日

2024年度より実施している「高大連携NDフォーラム」は、高校教員・教育関係者との議論を通じて高大接続・探究学習を考えるイベントです。第1回(6月2日開催)の好評を受けて、第2回「高大連携NDフォーラム」を12月10日に対面およびオンライン配信にて開催しました。

基調講演では「探究学習は、自己肯定感と生産性を高める！！～探究女子を育てる現場から～」と題し、トキワ松学園中学校高等学校・田村直宏学校長に実践例を交えてご講演いただきました。また、第2部では田村校長に加え京都橘中学・高等学校・小坂至道教諭と京都両洋高等学校・青木禎貴教頭、および本学・濱中倫秀准教授が、探究学習と高大接続に関してパネルディスカッション形式で議論を行いました。

フォーラム当日は仙台や金沢・福岡など遠方の高等学校の先生もオンラインで参加いただき、第1回を上回る参加者数となりました。

先生たちに聞いてみた

英語英文学科の須川いずみ教授が2025年3月で退職されるにあたって、
京都ノートルダム女子大学での思い出や研究について伺いました。

SUGAWA Izumi

須川 いずみ 教授
英語英文学科

立命館大学大学院文学研究科英米文学専攻修士課程修了。
専門は英米文学および映画。ジェイムズ・ジョイスの作品研究及びそれに関するフィルムスタディを研究課題としている。
近著に下楠昌哉、須川いずみ、田村章「百年目の『ユリシーズ』」(2022年 松籟社)。

先生の研究分野は？

アイルランドの作家ジェイムズ・ジョイスにはまって半世紀になります。大学1年次にシスターセリーン松本にジョイスの短編作品を読ませていただいて、その深い読解方法に魅せられました。英文学の世界の中で専門分野を尋ねられて、ジョイスの名前を出すと、必ず一目置いてもらえるような作家です。彼の作品は知的でとてつもなく難しいけれど、笑い転げるようなユーモア満載で、読まずにはいられなくなります。

研究生活の中で印象深い出来事は？

ジョイスが文学だけでなく映画にも興味を持っていたことが分かり、その調査のために科学研究費を2回いただいて、イギリスとフランスのアーカイブ・センターに古い映画を見に行くことができました。どこのアーカイブ・センターもとても親切で、視聴する日までにフィルムを集めておいてくださり、当日に観ることができました。

京都ノートルダム女子大学で過ごした中で、思い出に残っていることは？

ゼミ生だった卒業生が、先日京都駅近くのザ・サウザンド京都のレストランに招待してくれたのには感動しました。食事の選び方から会話まで、みなさん本当に洗練された大人になられていて心から嬉しかったです。今後もみなさんとのご縁を大切にしていきたいと思います。

京都ノートルダム女子大学の好きなところは？

学生も教職員もですが人間としておつきあいができる温かさを持っているところです。授業や仕事を越えた人間味のある関係が築けるところが自慢できる点です。

今後挑戦したいことは？

退職直後は羽を伸ばしたい気分ですが、きっとジョイスの読書会や映画の研究会は続けることになるはずです。同窓会から映画研究サークルを頼まれているので、また学内でお目にかかれる機会もあると思います。

message

学生のみなさん、この大学の学生であることを誇りに思ってください。
社会に出ればこんなに人に優しい環境を提供してくれるところはそう無いからです。本当に人間関係が温かい大学なので、みなさんもその環境をずっと守り続けていってほしいです。
若手の研究者のみなさん、より一層おきばりやす。

NDの本

本学教員が発刊に関わった書籍、執筆した論文等を紹介します。

教育方法学辞典

編著：日本教育方法学会　出版社：学文社
発行：2024年10月20日
学会設立60周年記念　教育方法にまつわる概念が網羅された1冊
日本教育方法学会が総力を結集し、設立60周年を記念して編集されました。350名を有する学会の体系的かつ最先端の研究蓄積を集約し、教育方法学の基本概念を各分野ごとにコンパクトに掲載しています。「情報科」の項目(p183)を担当しています。

神月 紀輔 教授 こども教育学科(兼 社会情報課程)

情報科が生まれた背景やその経緯など多くの情報を基に執筆しました。教科情報が生まれる少し前に研究者となった当時の熱気が蘇り、良い経験になりました。

私からあなたへの人間関係学

編著：一般社団法人 日本人間関係学会　出版社：学術研究出版
発行：2024年9月11日
「日本社会にさらに人間関係豊かな日々が訪れますように」と願いを込めた一作
日本学術会議協力学術研究団体である「一般社団法人日本人間関係学会設立30周年記念誌」として発刊。第一部は、学会史、研究調査、自然、仕事・社会など人間にまつわるさまざまな出来事について、多様な角度から学会理事と会員による協働執筆がなされ、記念誌プロジェクトチームおよび編集責任者として関与。第三部「ともに老いゆく」(p143-163)を担当しています。

三好 明夫 特任教授 生活環境学科

人間関係構築の厳しさと楽しさをともに味わった福祉臨床現場での回顧を中心に執筆しました。「老いの寂しさ、虚しさ」も感じながらも「老いの入口に立ちここからどう生きるのか、生きられるのか」を考えるとともに、心豊かな生活を提案することを意識しました。

創造性を育む乳幼児からの音楽表現

編著：佐野仁美、岡林典子　出版社：ミネルヴァ書房
発行：2025年3月刊行予定
音の表現者として子どもたちを育てるためのテキスト
子どもたちが乳幼児期に音遊びを経て音楽表現へと成長する過程で、保育者を目指す人々が、さまざまな視点から音楽指導の方法を学ぶことを目的としています。第5章第3～4節、第6章第2節を担当しています。

古庵 晶子 准教授 こども教育学科

毎年試行錯誤しながら「保育内容(表現)」の授業をしていますが、民族楽器の取り入れ方や保育現場に即した手作り楽器について、執筆しながら改めて考えることができました。

理科で考える自然災害

編著：藤岡達也　出版社：東洋館出版社　発行：2024年9月11日
授業を通して自然災害を知り、備える
地震や津波、火山噴火などの自然災害について、理科教育における考え方を具体的に示した本です。科学的な知識を通じて災害に対する理解を深め、どのように備えればよいか学べる内容となっています。第1章6、第2章2、第3章10を担当しています。

佐藤 真太郎 講師 こども教育学科

火山活動に関連した内容について、読者に分かりやすく伝えることを意識し、挿絵なども工夫して描きました。自然災害のメカニズムやその影響、防災・減災について、理論的な背景とともに、具体的な実践例を交えて分かりやすく説明しています。

論文

喜多 容子 准教授　英語英文学科
「Development of Support Materials for Primary School Instructors Implementing Small Talk Activities」
『An international journal for teachers and language materials creators:Between the Keys』Vol 32.4 / Fall, 2024. 5.pp.24-40

comments
スモールトーク活動促進の教材を開発し効果を検証しました。その結果、教材は教師を支援し、児童の積極性やスピーキング向上に寄与する環境づくりに有効であることが明らかになりました。

佐藤真太郎 講師　こども教育学科
「火山防災教育におけるプログラミング教材の活用ー火山観測機器の理解を目指したSTEAM教材の開発と実践による教育的効果の検討ー」
2024年11月『理科教育学研究』(第65巻 第2号 p.359-369)

comments
噴火警戒レベルの理解のため、根拠となる観測機器の理解を目指したプログラミング教材を開発。東京都の伊豆大島の小学校で授業を実践し、子どもたちや先生、気象庁の職員たちと意見交換を行う有意義な時間を過ごせました。

ND のイベントに密着

Events Diary

2024年9月～12月に実施した、学内の活動の一部をご紹介します。

9 Sep.

前期卒業式・学位授与式

2024 9.26

聖堂にて令和6年度前期卒業式が執り行われ、学部生13人が卒業しました。中村学長から「ジェンダー・ギャップ解消が少しずつ進む中、重要なのは性別ではなくパフォーマンスや資質です。社会に出る皆さんには、行動力・共感力・自分を大事にする力が求められており、本学で培った経験を糧にしなやかに道を切り開いていってください」と祝辞が述べられました。

10 Oct.

第14回英語スピーチコンテスト

2024 10.20

第14回英語スピーチコンテストが開催されました。今年は一次選考に応募があった61名のうち、入賞した12名のスピーチが披露され、開智高等学校の生徒が最優秀賞を受賞。コンテスト後は希望者が集い、アクティブラーニングスペースにて飲み物と軽食をとりながら本学の教員・学生と交流を深めました。

NDアカデミー

2024
9.7
9.21
10.5
11.16
11.30
12.7

地域・一般の方に向けて、9月から12月にかけて全12回開催したNDアカデミー（午前・午後の2部制）。大学の専門的な学びの一部を普段の生活で活用できる知識として身近に感じていただける構成とし、日本文学をはじめ、食生活学、医学、科学、哲学、心理学、統計学といった多岐にわたる本学での上質な科目の一部を紹介しました。この講座は京都市の「ふるさと納税を活用した大学における地域連携等推進事業」の一環として開催され、全日程でのべ186名が受講しました。

11 Nov.

現代人間学部公開講座 「こどもの気づき・大人のまなざし —「自然と遊ぼう！」から学ぶ、こどもの心理と教育—」

2024 11.2

心理学科とこども教育学科のコラボ企画による公開講座を実施し、心理学科から薦田教授と高井特任教授が、こども教育学科から佐藤講師が、過去の「自然と遊ぼう！」で行ってきた活動やそれに関係する研究を紹介しました。NDホールの講演は、隣室の大講義室で中継され、ボランティア学生とお子さんが関わっている中、お子さん連れのご家族にも視聴していただきました。

物故者追悼ミサ

2024 11.12

本学において、カトリック京都司教区鶴山進栄神父様の司式のもと、物故者追悼ミサが執り行われました。本学関係者及び卒業生の物故者の魂が神のみもとに帰り、永遠に安らかに憩うよう祈りを捧げました。

12 Dec.

ノートルダムクリスマス

2024 12.17

ノートルダム学院小学校・ノートルダム女学院中学高等学校・京都ノートルダム女子大学の3校合同によるNDクリスマスが開催されました。5年ぶりに合同合唱団と中高オーケストラクラブの演奏が復活し、3校の児童・生徒・学生によるナレーションに合わせて舞台上で小学校の児童と本学学生が聖劇を演じました。カトリック京都司教区鶴山進栄神父様のお話に耳を傾け、キリスト降誕を祝う時間をともにしました。

NEWS

旬の情報をお届け！

Campus 大学　Student 学生　Learning 学び

Student 学生 第22回カトリック女子大学総合スポーツ競技大会が開催されました！

12月21日、22日の2日間にわたって、本学にて第22回カトリック女子大学総合スポーツ競技大会が開催されました。この大会は、4つのカトリック女子大学（京都ノートルダム女子大学、聖心女子大学、ノートルダム清心女子大学、白百合女子大学）がスポーツを通して競い合うとともに、大学相互間の輪を広げ交流を深める貴重な機会となっています。バドミントン、バレーボール、硬式テニス、バスケットボールの4競技において熱戦が繰り広げられ、硬式テニス・バドミントンで優勝し、総合準優勝という成績をおさめました。

また今回は5年ぶりの本学開催となり、大会当日には30名以上の学生がボランティアスタッフとして参加してくれました。先生方をはじめみなさまのご協力を得て、無事に大会を終了することができました。来年度（2025年）の第23回大会は、11月15日、16日に東京にある聖心女子大学で開催されます。今後とも応援よろしくお願いいたします。

Campus 大学 「2024 京都北山デジタルスタンプラリー」に参加

京都ノートルダム女子大学は、北山エリア交流連携会議主催の「2024 京都北山デジタルスタンプラリー」に参加しました。開催期間は9月28日から12月1日まで。参加者は事前に特設サイトでアカウントを新規作成し、正門守衛室前とユニソン会館前に設置している二次元コードを読み取りながら北山にあるスポットのスタンプを収集しました。

Learning 学び 学生が商店街で地域連携活動を実施「新大宮商店街盛り上げ隊」

生活環境学科の三好明夫特任教授とゼミ生は、京都市北区の新大宮商店街とNPO法人プエルタと連携し、商店街の活性化プロジェクトを実施しました。この活動は、京都府の「大学・学生とともにのぼす京都プロジェクト共同事業費補助金」を受け、2024年9月から2025年2月にかけて月に1度、新大宮広場で手作り品の無料配布と販売会を開催しました。地域と障害のある方の架け橋となるとともに、商店街の活性化をめざしています。

Learning 学び 第3回海外ボランティア報告会を実施しました

海外ボランティア報告会が10月7日から9日に開催されました。フィリピン・パラワン島での活動内容や体験を参加学生が発表し、今後の目標を語りました。ごみ拾いを行った学生の一人は、回収する傍らでごみが捨て続けられ続ける現状に戸惑いつつも、「今後の島での環境教育によって改善が図れるのではないか」と語りました。

Student 学生 第63回ND祭『綺羅星』を終えて（ND祭実行委員長　こども教育学科 3年次生 K.A.）

今年度のND祭は雨予報から一転、天候にも恵まれ、コロナ禍以来過去最高となる2,900名の方々にご来場いただくことができました。1日目は俳優の板垣李光人さんをお迎えし、トークショーを開催しました。登場した瞬間から会場が盛り上がり、お越しいただいた皆さまが楽しんでくださっているのが伝わりました。2日目は、藤崎マーケットさん・Dr.ハインリッヒさん・センリーズさんのお笑いライブと、ビンゴ大会が中庭で行われ、会場は笑顔溢れるひとときになりました。この2日間を通して多くの団体による模擬店や展示、ステージ発表も行われ、「きらきらと星（ひかり）輝く」時間を過ごしていただけたのではないでしょうか。今回『綺羅星』をテーマにND祭を開催することができたのも多くの方々のご協力あってのことと改めて感じております。2025年度もさらに皆さまに楽しんでいただけるND祭を開催できるよう精一杯取り組んでまいります。今後とも、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

Campus 大学 3校合同大学IR研修会を実施しました

9月30日に兵庫大学、沖縄大学、京都ノートルダム女子大学が共催したオンラインIR研修会で、各大学のIR担当者が取り組みを発表し知見を共有しました。質疑応答も活発に行われました。

Campus 大学 3期生が来校されました

生活文化学科・米田名誉教授を含む同窓生3期生が、10月10日同窓会の開催と併せて本学の見学のため来校されました。当日は60周年記念の動画をご覧いただくとともに、大学構内を案内した在校生との交流を楽しまれ、在学当時の記憶と母校への思いを振り返る1日となりました。

Learning 学び 2024年度キャリア実習・インターンシップ成果発表会を実施しました

10月17日にキャリア実習・インターンシップ成果発表会が開催され、28名の学生がポスターセッションで実習の成果を発表しました。学生たちは、訪問者からのさまざまな質問に、自身の経験や学びを交えつつ、笑顔で堂々と答えていました。

Student 学生 学生が国際学生会議に参加しました

英語英文学科の学生4名、国際日本文化学科の学生1名、こども教育学科の学生1名が10月29日から5日間、各国の学生と議論を通して国際交流することを目的に国際学生会議「The International Students' Start-up Conference」に参加しました。会議ではさまざまな社会問題をテーマに、グループごとにその問題点と解決策を議論し、ビジネスモデルを発表しました。

Learning 学び 新卒1年目のOG先輩に聞く！！「社会人のリアル」講演会開催

11月6日に開催された「OG講演会『社会人のリアル』」では、2024年度3月卒業の先輩5名が在学生に向けて社会人としての経験談を共有しました。新卒1年目の先輩たちが仕事や就職活動の体験談を語り、学生からは多くの質問が寄せられました。参加者からは、先輩のリアルな体験談が参考になったと好評でした。

Campus 大学 2024年度前期授業アンケート報告会を実施しました

2024年度前期授業アンケート報告会が11月13日に開催されました。アンケート結果の説明や活用方法、各学科の傾向について報告があり、学生からの質問も受け付けられました。

INFORMATION

01 登録日本語教員養成機関として登録されました

ND教育センター事務室

学校法人ノートルダム女学院は令和６年度1回目の登録日本語教員養成機関にかかる申請を行い、このたび、登録日本語教員養成機関として登録されました。
令和７年度以降の京都ノートルダム女子大学の入学者が全学プログラムである『日本語教員養成課程』を修了すると、登録日本語教員になるための日本語教員試験のうち基礎試験が免除されることとなります。

詳しくは
こちら▶

02 横断幕とミニフラッグを制作しました

企画広報課

本学の建学の精神である「徳と知」を根底とした教育姿勢に基づき、2022年に制作したコミュニケーションワード「わたしらしく、誇らしく Be Notredame, Be Myself」を反映した横断幕・ミニフラッグを制作しました。横断幕はユージニア館２階から１階に掲げており、ミニフラッグは守衛室、ソフィア館入り口横に設置していますのでぜひご覧ください。

03 「海外研修奨励制度」を引き続き実施しています

国際教育課

海外において多様な文化や言語に直接触れる体験を奨励するため、参加者に奨励金を支給します。
詳細は4月の海外研修説明会にて説明します。開催日時はUNIPAでお知らせします。

対象者	本学学部生
対象となる研修	海外語学研修、海外キャリア実習、海外文化研修、海外ボランティア、国際学生会議等
給付金額	研修費用の半額（上限40万円）

04 キャンパスミニストリー室へ足を運んでみませんか？

キャンパスミニストリー室

キャンパスミニストリー室は学生たちのためのほっとできるスペース。

- キャロライン館１階、入ってすぐ右。
- 火曜日～金曜日の12:00～17:30開室。
- おやつ、おひるごはん、勉強、作業などにどうぞ。
- 出入り自由。予約も申し込みもいりません。
- シスターのX（旧Twitter）はじめましたのでフォローお願いします。

X（旧Twitter）の
二次元バーコードは
こちら▼

スケジュール

SCHEDULE

2025年3月 — 2025年9月

本学のイベントは
公式サイト上でも
ご確認いただけます。

在 在学生
卒 卒業生
教 教職員
保 保証人（保護者）
一 一般

2025年3月8日（土）

在 教 保

卒業式・学位授与式

時間／10:30～
場所／ユニソン会館大ホール
お問い合わせ／総務課
TEL.075-706-3700

2025年4月2日（水）

在 教 保

入学式

時間／10:00～
場所／ユニソン会館大ホール
お問い合わせ／総務課
TEL.075-706-3700

2025年6月8日（日）

在 卒 教 保 一

春の講演会「フランクル心理学に学ぶ喪失からの再生」

時間／15:00～16:30（14:30開場）
場所／ユージニア館NDホール
講師／Sr.加藤美紀氏
（仙台白百合女子大学 学長）
お問い合わせ／カトリック教育センター
info_event@notredame.ac.jp

2025年6月21日（土）

在 卒 教 保 一

公開講座
「未来を創る力～経済的自立と起業の可能性～」

時間／14:00～16:00（13:30開場）
場所／ユージニア館NDホール
企画／女性キャリアデザイン学環
講師／結税理士法人・伊藤弥生公認会計士
事務所 代表　伊藤弥生氏
お問い合わせ／研究推進課
kenkyu@notredame.ac.jp

2025年9月25日（木）

在 教 保

前期卒業式・学位授与式

時間／10:00～
場所／ユージニア館聖堂
お問い合わせ／総務課
TEL.075-706-3700

その他のスケジュール

- 4/10：前期授業開始日
- 7/30-8/6：定期試験期間
- 8/8-8/17：事務取扱休止
- 9/26：後期授業開始日

編集後記

ロサンゼルス・ドジャースの大谷翔平選手は野球の業績が超人的である上に温かい人柄や礼節ある立ち居振る舞いが人々の心をとらえ、その活躍は大げさですが人類史に残るでしょう。凡人から見ると成功にしか縁がないように思われ、欠点の一つぐらいあるだろうと勘ぐりたくもなります。今号で紹介している「キャリア形成ゼミ」や「海外ボランティア実践」は「為すことで学ぶ」活動、つまり失敗が付き物。高校生の時に将来の目標とその実現のための64の行動を「マンダラチャート」に書いた大谷選手もまた失敗しては行動することを繰り返したから今がある、と思えば凡人もそれなりに自信が持てそうです（ま）

編集担当：戦略企画室 企画広報課

京都ノートルダム女子大学 大学報　2025年3月1日

NDキャンパス通信 Vol.22

編集・発行／ 京都ノートルダム女子大学 戦略企画室 企画広報課
〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1番地
URL：https://www.notredame.ac.jp
E-mail：kikaku-koho@notredame.ac.jp
制　　作／ 株式会社WAVE

本誌は京都ノートルダム女子大学ND育友会の資金援助を一部受けています。
※掲載している情報は制作時点（2025年2月中旬）のものです。

京都ノートルダム女子大学への

寄付のお願い

聖母マリアを校名にいただく京都ノートルダム女子大学は、建学以来、多くの皆さまからのご支援により支えられ、「徳と知」を兼ね備えた女性の育成を行って参りました。しかし、大学を取り巻く環境は年々厳しくなっており、優れた教育を学生へ提供し続けるために、教育活動や奨学金の強化等が不可欠となっています。

そのため、京都ノートルダム女子大学を応援していただいている皆さまに、教育充実を目的とした募金のご支援を賜り、皆さまとともに京都ノートルダム女子大学のさらなる発展をめざして進んで参りたいと思っております。何卒ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

京都ノートルダム女子大学
学長 中村 久美

■ お申込み方法

Ⅰ:銀行振込によるご寄付

銀行・郵便局からご寄付いただけます。

https://www.notredame.ac.jp/donation/furikomi/

Ⅱ:インターネット募金

クレジットカード、インターネットバンキング(Pay-easy(ペイジー))、コンビニ支払のいずれか便利な方法を選択してご寄付いただけます。

https://hojin.notredame.ac.jp/donation/

Ⅲ:古本募金

皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、
その査定換金額をご寄付いただく取組みです。

https://www.notredame.ac.jp/donation/furuhonbokin/

Ⅳ:ふるさと納税寄付金を活用した地域連携活動支援

寄付金については、京都ノートルダム女子大学及び京都市で取組む、大学・学生と地域の連携促進事業等に活用されます。

https://www.notredame.ac.jp/donation/furusato/

ご報告 2023年度のふるさと納税寄付金を使って、「NDアカデミー」を開講しました。(詳細はP.13を参照)ご寄付いただいた皆さま、ありがとうございました。

Present

Ⅰ:銀行振込によるご寄付、Ⅱ:インターネット募金による寄付を5,000円以上頂いた方には、以下のうちご希望の品をお送りいたします。

A: ND祭(秋開催)で使用出来るチケット
B: 京都ノートルダム女子大学オリジナルグッズ、NDクリスマスカード送付(12月)

※領収書を送付する際に、返信用書類(メールもしくはFAX)を同封いたしますので、
そちらでご希望の品物(AまたはB)をお選びください。

寄付金に関するお問い合わせ

京都ノートルダム女子大学 管理運営部 財務課
E-mail:accounting@notredame.ac.jp TEL.075-706-3703 FAX.075-706-3707